令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南中学校】

童牛徒の

学力の向知識・技能

思考·判断·表現

6	次年度への課題と学力向上策	
知識·技能	次年度に向けて	
思考·判断·表現	未評価 2月)	

	1	今年度の課題と学力向上策		
	U	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期·頻度】
	知識·技能	(学習上の課題> 根拠を基に説明をする問いや漢字や単語などを理解する 力が不足している。 〈指導上の課題〉 生徒が何につまづき、何を得意にしているのかを各教科の 特性に応じながら把握することが不十分である。		①教科と単元の特性に応じてTDL(Time to Deepen your Learning:学びを深める時間) 加根薬を取り入れ、学びの過程や理解したことを把握し無り返る機会を設け、自己評価を積め重ねながらステップアップを実施できるような授業改善を進める。(①年間を通して実施] ②話し合い活動やラブレット端末上での意見共有ツールを活用した協働的な学びの機会を設定し、学び方を学ぶ」指導を継続的に行うことで、生徒の学びの自走を図る。【②各単元で1回以上実施】
7	思考·判断·表現	〈写書上の意題〉 国語では書くこと」、数学では「記述」の問題に対して課題があり、多角的に思考し選択、判断する方が不足している。 〈指導上の課題〉 申元全体を見遇した上で、つまづきやすい分野(問題)について、生徒の理解や実態に合わせて柔軟に指導・サポートできる工夫が不十分である。	7	①生徒が多様な思考に触れるため、TDL(Time to Deepen your Learning:学位を深める時間)型授業における生徒同士の協働的な学びの機会を積極的に設定する。 ②各教科の授業にて、「さいたま市『アクティブ・ラーニング型授業』を実施し、 自分の考えを書べ時間、他者の意見と自分の意見を共有、比較し検討する時間 などを設定し、生徒が文章を使って表現する活動に重点的に取り組んでいく。 【①・②年間を通して実施】

<小6.中3>(4月~5月)

5	評価(※)	調査結果学力向上策の実施状況	
知識·技能	(1) (2) (3)	信果分析(官埋職・字年王仕等) 詳細分析(学年・教科担当) 分析 <u>共有</u> (児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	J'
思考·判断·表現		結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

4	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考·判断·表現	

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) \$\frac{2}{2}\tag{2}\tag{2}\tag{2}\tag{2}\tag{2}\tag{3}\tag{2}\tag{3}\tag{2}\tag{3}\tag{3}\tag{2}\tag{3}\tag{2}\tag{2}\tag{2}\tag{3}\tag{2}\tag

今和「不接全国学力・学習状況調査の知識・技能において、全国(公立)の平均止答率と目板の平均止答率を比較し、はとんどの問題で全国・埼玉県平均を上回ることができた。国語・数学では、すべての問題で平均正答率を超えており、特に数学では全国・埼玉県平均を大きく上回る問題が多かった。数学はほとんどの時間でTDL型の授業を実施しており、その中でも生徒たちが主体的に学ぶ中で知識や技能の定着ができていた。TDL型の授業を適切に実施することで、生徒が自身の課題を振り返り、知識・技能の定着を図ることができたと考えられる。一方理科では、化学分野の元素記号を答える問題が全国・埼玉平均を下回る結果となった。基礎的な問題なので、基礎的な知識の定着を図るための改善が課題である。

令和7年度全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現において、全国(公立)の平均正答率と自校の平均正答率を比較し、ほとんどの問題で全国・埼玉県平均を上回ることができた。国語・数学では、すべての問題で平均正答率を超えており、特に数学では全国・埼玉県平均を大きく上回る問題が多かった。一方、各教科で平均正答率が低い問題に目を向けると、記述式の問題で平均正答率が低くなっている傾向が見られた。今後の授業では、自分の考えをまとめたり、知識や技能を要約したりする場面を、授業でとり入れることが必要になると考えられる。

①結果分析(管理職·学年主任等 ②詳細分析(学年·教科担当)

8/.	3	3)分析五	中間期報告	中間期見直し
		評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期·頻度】
	知識·技能	B 中間i	TDL型を各教科、適切な単元で実施することができた。 また、「さいたま市ドアクティブ・ラーニング」型模様においても実施することができた。これにより、生徒は見通しを立てながら、学習のベースを組み立てたり、自分の課題を解決するために必要な学習ツールを選択したり、わからない場面では数節や力かる生徒に質問したりして、知識・技能の定着を図ることができた。	変更なし。
	思考·判断·表現	目標・記	TDL型を各教科、適切な単元で実施することができた。また、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業においても実施とができた。これにより、生徒は主体的かつ協働的に学習を進め、各教科における思考・判断・表現する力を身につけることができた。	変更なし。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)